

Umbrellas, Strawberries and Cream



寺澤 盾

昨年の全米オープンテニス選手権での錦織圭選手^{にしこりけい}の活躍を記憶されている方も多いと思いますが、今年に入ってから全豪オープンなどで安定した好成績をおさめています。主なテニスの国際大会には、全米、全豪のほかに全仏と全英があり、この4大会はほかの大会よりも格が高くグランドスラムと呼ばれています。全英は一般にはウィンブルドンとして知られており、4大大会の中でももっとも権威があります。

ウィンブルドン選手権は毎年6月最終月曜日から2週間の日程でロンドン郊外のウィンブルドンのAll England Lawn Tennis and Croquet Clubで開催されます。lawn tennisという名前からわかるように、コートはすべて芝生で、とくにメインコートのセンターコートは、年一度の大会時のみに使用され、それ以外の期間は芝の養生にあてられています。会場となるクラブ名にあるcroquet（クローケー）はテニスと同じ芝コートで行われるスポーツで、「ゲートボール」と似た競技です。『不思議の国のアリス』でアリスが「はりねずみのボール」や「フラミンゴの槌」で悪戦苦闘してプレーしているのはこのクローケーです。

さて、ウィンブルドン大会が催される期間はWimbledon fortnight^{フョーナイト}とよばれます。fortnightはfourteen night(s)が約まった形でイギリスでは「2週間」を意味する単語としてよく聞かれます。大会の中日である日曜日（Middle Sunday）は休養日としてプレーは行わないという伝統があります。ウィンブルドンにまつわる面白い英語表現としてはほかにWimbledon effectがあります。ウィンブルドン大会は全英という名前からうかがえるように、もともと英国人を対象にしたものでしたが、他国の選手にも門戸を広げた結

果、自国選手が優勝できなくなった現象を指します。1936年のフレッド・ペリー（現在ではスポーツウェアのブランドとしても知られている）の優勝から2013年のアンディ・マレーまで実に77年間、英国人男子選手の優勝がありませんでした。これに倣うと、モンゴル勢などの外国人力士に席卷されている大相撲の現況はRyogoku effect? と呼べるかもしれません。

私も10数年前イギリスに1年間滞在していたとき、ウィンブルドン大会を観戦する機会がありました。大会が催される初夏は長く暗い英国の冬を過ごしてきた人々の心が浮き立つ季節で、まさにこうしたお祭ムードの中で「テニスの聖地」へ足を運んだことを覚えています。当時は、メインコート以外のコート（グランドコート）でしたら当日券を買うことができました。

初夏とはいってもこの時期のウィンブルドンは雨が多いのですが、イギリスでは日本のような長雨はあまりないので雨が降ってもしばらくすれば晴れ間がのぞくのが普通です。観戦に来ている人の多くは本や雑誌などを携えていて、雨が降ると傘をさして本を開きゆったりと雨の止むのを待っています。雨降りはウィンブルドン観戦の楽しさの一部になっているようです。2009年からセンターコートには開閉式の屋根が設置されましたが、ウィンブルドンの伝統が一つ失われたようで少々寂しい思いがします。

傘とともにウィンブルドン観戦に欠かせないのが、strawberries and cream（イチゴに生クリームをかけたもの）です。これをいただきながら錦織選手の試合を観戦する日を夢見っていますが、大学教員も一般サラリーマン並みに忙しくなった昨今では夢に終わりそうです。（てらさわ じゅん・東京大学大学院教授）